



# 「大好き東村山写真コンクール」 入賞作品の決定



市内の風景やお気に入りの場所、楽しい催しやできごとなど、東村山らしさを収めたとおきの写真を9月から10月にかけて募集しました。応募があった51作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点、市長特別賞1点を決定しましたので紹介します。たくさんのご応募、ありがとうございました。

問 広報広聴課

## 最優秀賞



「落ち葉と黄色い電車」(都立東村山中央公園)

野仲 州太郎さん(萩山町)

## 優秀賞



「多摩湖夕暮れ 光の競演」(多摩湖堤防)  
沖濱 隆志さん(久米川町)



「六月の風景」(北山公園) 木村 隆成さん(恩多町)

### 講 評

今年の入賞作品は、東村山らしい季節感があふれるものがそろいました。最優秀賞は、落ち葉で彩られた風景の中に電車の黄色が効いて、シャッターを押すタイミングもよく秋のすがすがしい空気を感じます。優秀賞の3名は、実力を感じました。多摩湖に映り込む光と夕焼けの空をシンメトリー(対称的)に切り取ったのは、シンプルで美しさが際立ちました。北山公園をふかんで捉えた作品は、菖蒲の間を通る小道の形状を上手く画面に配置して歩く人々の配置も抜群です。太鼓の写真は「聞けこの響」というタイトルがぴったりですね。力強く、太鼓の音まで聞こえるようです。ばちがぶれているのも躍動感を引き出していて、シャッタースピードの選択がよかったと思います。今回残念だったのは、プリントがよくない(明るすぎて飛んでいる部分が多いなど)故により写真なのに一次審査を通過しないものがあったこと。また、画面に日付が入っているものも、もったいないと思いました。撮り終えて安心、ではなく美しくプリントして完成だと考えていただきたいです。

審査員 写真家 宇井真紀子

最優秀賞の「落ち葉と黄色い電車」は、広く取った落ち葉の道と木立の茶色で季節の存在感を伝えていて、そこに向こう側から走ってくる黄色い電車と澄んだ空色がアクセントとして効いています。落ち葉に当たる柔らかな冬の陽の光が美しいストーリー性のある作品です。

「多摩湖夕暮れ 光の競演」は、まるでUFOが並んでいるように見える不思議な写真です。夕暮れ時の風が無いときを待って、水面に反射する様子を上手に取り入れています。さらに美しい色の空には飛行機雲が一筋。どこかミステリアスな一枚です。

「六月の風景」は天候や空、通路のバランスはもちろん人物の配置にまで計算し尽くされた構図に注目です。複数の動く被写体を思った通りに撮るといのはなかなか難しいものですが、辛抱強く待つことでこのような美しい作品になっています。

「聞けこの響」は、ここ数年では珍しく生き生きとした人物が主役です。右手に持ったばちの位置とぶれ感など全身で太鼓を叩くのに一番効果的な瞬間を捉えられています。躍動感あふれる一枚です。

審査員 写真家 當麻綾子



「聞けこの響」(市役所通り)  
内木 三次さん(秋津町)

「佳作」および「市長特別賞」は6面に掲載していきます。

